Radical Bamboo Rod Builders ⑥

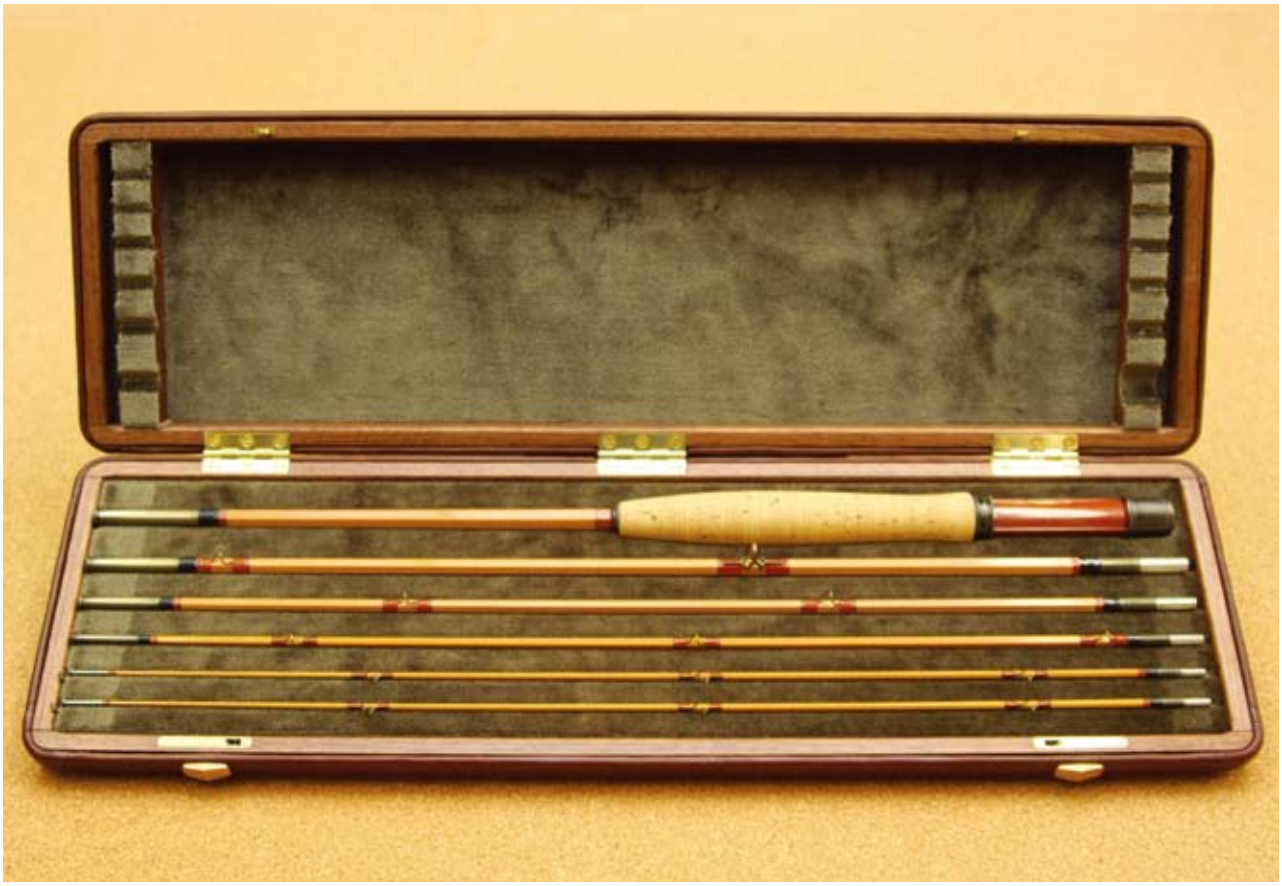
Tim Abbott
テイム・アボット

text Todd E. Arai Larson
タッド・ラーソン／シンシナティ州／ホワイトフィッシュ・プレス

translation 永野竜樹
ながのたつき／東京都

精緻とラジカルを追求する元レーシングカー・エンジン製作者

アボットはエンジニアが設計に使用する方眼紙のロールを取り出してきて、ロッド全体のシルエットを書きはじめた。それは常に先進的な技術を導入するアボットにしてみれば、時代遅れのやり方に見えた。しかし彼は言った。「コンピュータ・プログラムよりも方眼紙のほうがもっと自由に使えるよ」—。



写真大　飛行機の機内に持ち込めるトラベル仕様の5ピースのロッド
写真右　40以上のコルクを重ねて作り出したフィット感に優れるグリップ
写真上　自ら手掛ける精緻なステップダウンフェルール

ティム・アボットのバンブーロッドは熱い。ロッドの品質も、そこにこめられた情熱も。

彼はかつてレーシング・カーのエンジン製作者だった。そんなキャリアを持ったバンブーロッド・ビルダーは他に聞いたことがない。

アボットのバンブーロッド・ビルディングは、彼が過去に異業種で培ってきた、精巧な技術力に裏打ちされている。

マツダのレーシング・カー

アボットは1953年にデラウェア川が流れるイースト・ペンシルバニアで生まれた。幼いころにはかなりの時間をアウトドア遊びに過ごした。10歳年上の隣人に連れられて初めて釣りにでかけたときのことを、アボットは今でもはっきりと思い出す。

「自宅そばに流れる小川に連れて行ってくれたんだ。本当に忘れられない経験だった」

その後ボーイスカウトに入ってからいちだんと釣りは身近になったが、のめりこむまでにはならなかった。アボットがフライフィッシングへ熱い情熱をそそぐのは、後になってからのことだ。

彼を釣りに連れて行ってくれた隣人がドラッグレースに打ち込み始めてからは、アボットも自動車とエンジンという特殊な世界に身も心も捧げること